

心も温まるタオル帽子

闘病機にがん患者に贈る

福岡・大刀洗町 末次さん

タオルで手作りした帽子で、身も、そして心も温められれば。そんな思いで福岡県大刀洗町の末次由美さん(45)は「タオル帽子」をがん患者に贈る活動を始めた。自身も乳がんを患い、治療の副作用で髪が抜けて落ち込んだ時、タオル帽子に「温められた」経験がある。2年前には仲間とボランティア団体「あいう笑がお」を結成し、これまでに約370個を患者の元に届けてきた。「笑顔になつて」というメッセージを添えて。(末次直子)

4

人◆の縁の物語



2010年11月、末次 摘手術を受け、抗がん剤さんは乳がんと診断された。1ヵ月後に左胸の全

骨が裂けるような痛

み」が続き、髪はごつそり抜けた。

外出時はかつらをかぶればいいが、摩擦で頭皮

て、私もできることが

が痛くなり長時間はつけられない。かといって家

帽子をかぶつて過すよ

あるんだと希望の光が見

族にそのままの姿を見せ

えきました」と末次さ

かできることはないか

のは、心配させるよう

かでいる」とともに笑

り苦しい。「それでも

友人に相談すると「同じ

く接してくれる家族

顔でいれば、きっと周り

に涙を見せたくない、

も笑顔になれる。活動を

風呂場で毎日泣いていま

少しでも長く続け、助け

だつた長女(20)も最初から参加してくれた。今では約120人のボランティアが活動。女性のがん患者にかつらを貸し出す

福岡市のNPO法人「ウ

ィックリング・ジャバ

ン」と連携して講習会を開くなど、人の縁を広げている。

抗がん剤治療は半年で終わり、髪も戻ってきた。

抗がん剤治療は半年で終わり、髪も戻ってきた。

抗がん剤治療は半年で終わり、髪も戻ってきた。

抗がん剤治療は半年で終わり、髪も戻ってきた。

抗がん剤治療は半年で終わり、髪も戻ってきた。

抗がん剤治療は半年で終わり、髪も戻ってきた。

抗がん剤治療は半年で終わり、髪も戻ってきた。

タオル帽子を手に「つらいときこそ笑顔でいたい」と話す末次由美さん

2010年11月、末次 摘手術を受け、抗がん剤治療へ。副作用で「全身の骨が裂けるような痛

み」が続き、髪はごつそり抜けた。

外出時はかつらをかぶればいいが、摩擦で頭皮

が痛くなり長時間はつけられない。かといって家

族にそのままの姿を見せるのは、心配させるよう

り苦しい。「それでも明るく接してくれる家族

に涙を見せたくない、

風呂場で毎日泣いていま

した」。変わっていく自分

の容姿に耐えられず、

ふさぎ込む日が増えた。

そんな末次さんにタオ

ル帽子を届けてくれたのは、15年来の友人だった。

縦30センチ、横62センチのタオル

を筒状に縫い、ニット帽

のような形に仕上げられ

ていた。

そんな末次さんにタオ

ル帽子を届けてくれたのは、15年来の友人だった。

縦30センチ、横62センチのタオル

を筒状に縫い、ニット帽

のような形に仕上げられ

ていた。

手術から2ヵ月後の11

年2月、「あいう笑がお」

を設立。近所や知人に呼び掛け、月1回、自宅に

あるタオルを持ち寄って

帽子作りを始めた。抗が

ん剤治療の副作用で体調

が優れない日があつても

、2456。

☆ ☆ ☆

3月17日には「あいう笑がお」の活動を始めて

2周年の記念に、大刀洗

町のふれあいセンターで

イベントを開く。乳がん

の講話やタオル帽

子作りの講習など。末次

さん「090(9773)

女性がん患者の語り合う場開設

月1回、福岡市に

抗がん剤の副作用で髪を失った女性がん患者にウイッグ(かつら)を貸し出す

活動などに取り組むNPO

法人「ウィッグリング・ジャ

パン(福岡市)は毎月第4

月曜の午後2時~4時、福

性だけを対象にした。同法

13サンペアービル3階で、女性のがん患者と家族が集い、悩みや闘病体験を語り合う「ウィッグリングカフェ」を開く。

27日が1回目。夫との向

き合い方、出産に関するこ

となどは、男性がいると話

しづらいとの声があり、女

性だけを対象にした。同法

人の女性ボランティアスタッフ(がん体験者)が応対。日々によっては、心の問題や乳がんに詳しい女性医師もえた体験者も参加できる。参加費は2千円、会員千円。予約が必要で、申し込

みは「ウィッグリング・ジャ

パン」=092(725)6623。